

(66)

氏名(生年月日)	ヤマ 山	モト 本	カズ 和	コ 子
本 籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第818号			
学位授与の日付	昭和62年3月20日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	悪性腫瘍肝転移における血清5'-Nucleotide phosphodiesterase isoenzyme-V の腫瘍マーカーとしての意義			
論文審査委員	(主査) 教授 織畑 秀夫 (副査) 教授 小幡 裕, 教授 降矢 熒			

論 文 内 容 の 要 旨

目的

悪性腫瘍臨床例において, CEA(carcino embryonic antigen), AFP (α -feto protein) Ferritin, β_2 -MG (β_2 -microglobulin), RNase(Ribonuclease), および, 近年, 原発性肝癌, 転移性肝癌のマーカーとして注目されている5'-NPD-V (5'-Nucleotide phosphodiesterase isoenzyme-V)を測定し, 肝転移を早期に予測するには, どのような腫瘍マーカーを調べればよいか, 又は組み合わせて検査すればよいかについて検討した。

対象および方法

昭和57年3月より昭和60年12月までの悪性腫瘍患者400人(術前および腫瘍非切除例178人, 術後例222人)について6種の腫瘍マーカーを測定し, それぞれの陽性率(各腫瘍マーカーの陽性数/肝転移の証明された症例数), 偽陽性率(各腫瘍マーカーの陽性数/肝転移陰性症例数), 予測率(肝転移陽性症例数/各腫瘍マーカーの陽性数)について検討を行なった。

成績および結論

1. 術前例, 腫瘍非切除例では, 血清5'-NPD-Vの陽性率は64.3%(9例/14例)で, CEA 65.2%, RNase 68.5%, Ferritin 66.7%, と同様な値を示すが, 予測率は60%, 偽陽性率は4.5%であり, 他のマーカーに比べ最も優れていると思われた。

2. 術後例では, 血清5'-NPD-Vの陽性率は84.7%, 予測率は64.7%, 偽陽性率は3.9%であり, 術前例に比べ信頼性が強く, 又, 他のマーカーと比較し優れていることより, 術後経過観察における肝転移診断に, より有用であると思われた。

3. 他のマーカーとの組み合わせでは, CEAとの組み合わせが有用と思われるが, CEA高値の場合は他の遠隔転移も考慮する必要がある。

4. 血清5'-NPD-Vは肝炎, 肝硬変, 閉塞性黄疸などの肝機能障害で偽陽性を示すことから, これらの疾患を合併している時には測定の適応とはならない。

論 文 審 査 の 要 旨

悪性腫瘍の臨床において肝転移を予知することができれば治療上大いに役立つと考えられる。

著者はこの点に着目し臨床例について各種腫瘍マーカーの効果を比較検討した結果, 血清5'-NPD-Vが優れていることを明らかにしたものである。よって本研究は学術上価値あるものと認める。

主論文公表誌

悪性腫瘍肝転移における血清5'-Nucleotide phosphodiesterase isoenzyme-V の腫瘍マーカーとしての意義

東京女子医科大学雑誌 第57巻 第1号
42～54頁（昭和62年1月25日発行）

副論文公表誌

1) 結腸穿孔の検討

群馬医学 36 23～25（1981）

2) 高齢者腸重積症例の検討

日救急医学会関東誌 7（2）90～91（1986）

3) 腹部感染症における抗生剤の選択—過去3年間の腹部感染症例における検出菌と各抗生剤の感受性より—

腹部救急診療の進歩 4 159～162（1985）

4) 胃・十二指腸穿孔の病態と治療、胃・十二指腸穿孔による汎発性腹膜炎症例の検討

腹部救急診療の進歩 6（3）401～406（1986）

5) 慢性腹側膜炎を繰り返した膵管非癒合の1例
胆と膵 7（2）227～234（1986）

6) 消化管吻合術後漏出（Leakage）症例の検討
日外科系連会誌 15 37～40（1986）

7) 胆嚢捻転症の2手術例—自験例を含む本邦例133例の検討—
東女医大誌 52（9）1272～1281（1982）

8) 緊急針状腹腔鏡の検討

救急医学 7（11）1679～1686（1983）

9) 多臓器障害と高血糖高浸透圧非ケトン性昏睡を呈した Intrauterine Fetal Death Syndrome の1治験例

東女医大誌 53（3）308～312（1983）

10) CO₂レーザーメスの臨床使用例の検討と我々のハンドピースの工夫

東女医大誌 52（12）1477～1483（1982）